

提言

令和元年7月26日
元気づくり大学提示

本研究会においては“自覚醸成”の手段として公的コミュニティの創造、継続、拡大、連携、再生等に取り組む政策過程を、市町村の「元気高齢者によるまちづくり」と定義し、関連者一同で下記を提言する。

- 我々は、市民一人ひとりの自覚(幸福、感謝)を促す多種多様なコミュニティの創造、継続、拡大、連携、再生等にチャレンジする。
- 我々は、社会的共通資本として持続可能な社会、サステナブル性をめざす。
- 我々は、市民一人ひとりの自覚を基軸としたビレッジコンソーシアム型の、まちづくりをめざす。
- 我々は、コミュニティをシステム化、さらにはビジネスモデルにして自覚の維持拡大をめざす。
- 我々は、“自覚醸成”コミュニティから発現してくる互酬性(優しさや思いやりなど)を住民力としたうえで、地域力として経済的効果さらには社会的効果を視野に入れつつ元気なまちづくりをめざす。
【例：3種経済循環型まちづくり(元気づくり大学提案)】